

市長と語ろう！タウンミーティング 会議録

日 時：平成30年11月20日（火） 19：00～20：40

場 所：黒部市国際文化センターコラーレマルチホール

テーマ：黒部市総合振興計画の始動と

「健やか」「展やか」「朗らか」黒部の創造！

参加者：157名

【事務局】

会場にお集まりの皆様、お疲れ様です。

ご案内の時刻になりましたので、ただいまから、平成30年度「市長と語ろう！タウンミーティング」を開催いたします。

私は本日の進行役を務めさせていただきます、企画政策課の吉田でございます。皆様のご協力を賜り、円滑な進行に努めたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

さて、本日のタウンミーティングのテーマは、『黒部市総合振興計画の始動と「健やか」「展やか」「朗らか」黒部の創造！』であります。

最初の30分程度で、市長からテーマについてお話しをさせていただきます。会場の皆様は、正面のスクリーンをご覧になりながら、お聞きいただきたいと思っております。

説明の後、会場の皆様方から、順次、ご意見やご提言をお受けし、意見交換することとしております。終了時間は、午後8時30分を目処として進めていきたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

また、先ほど受付でアンケート用紙をお配りいたしました。今後のタウンミーティングの参考とさせていただくほか、ご発言できなかった皆様からもご意見をいただき、今後の市政運営の参考とさせていただきたいと思っております。

それでは、さっそく始めさせていただきます。

大野市長から、本日お集まりいただきました皆様へのごあいさつと、市長がテーマについてご説明いたします。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】

皆さん、こんばんは。

冒頭からお詫びをしなければなりません。市長に就任して初めての大事なタウンミーティングにもかかわらず、身体に風邪を持ち込んでしまいまして、非常にお聞き苦しいと思っております。頑張ってお話をしますので、どうかお許しをいただきたいと思っております。

今日は皆様方には、足元はよかったというもの、なにかとご用事もあったかと思っておりますが、タウンミーティングにお越しいただき誠にありがとうございます。まず心から感謝、御礼を申し上げます。またおかげさまで、4月23日に市長に就任をさせていただきましてからここまで約7か月間、私にとっては充実した毎日でありまして、あっという間でありましたけれども、皆様方のおかげで、ここに立たせていただいていることに感謝をいたしたいと思っております。

【1ページ】

それでは早速、まずは総合振興計画についてのお話をいたします。

ご案内のとおり合併以来、黒部市が新しく誕生しまして、第1次総合振興計画がスタートしました。その終了が今年の3月31日でありまして、その第1次総合振興計画の成果を受けて、平成30年4月から第2次の総合振興計画がスタートいたしております。つまり、私が市長に就任させていただくと同時に、平行的にこの計画が始まったとご理解いただければありがたいと思います。この原点は、国の国土総合開発法が昭和25年に制定されました。それから全国総合開発計画が10年位ごとでありました。そのような流れのなかで、各地方自治体は、その自治体の最上位の計画としてこのような計画を立てて、市民の皆さんと共にまちづくりを進めてきたわけでありまして、この第2次総合振興計画もこれから10年をどういう黒部にしていこうかという大事な最上位の計画であります。ただし、どこの自治体も同じですが、10年の中で大きな社会の変化が出てくる可能性があります。そのときにはいわゆるローリングといいまして、内容を少し変えていくということもあります。今日はとりあえず、市長は今、10年間このようなことを見込んでスタートしたんだなと理解いただければありがたいです。

計画そのものを立てるときには、まず構想が必要であります。基本構想を立てます。その構想に基づき、基本計画を立てます。基本構想については、平成29年9月に議会で議決をいただいております。基本計画については、私が市長になりましたから、初めての定例会でありました6月議会で議決をいただきました。構想に基づく基本計画であります。具体的には実施計画にどんな事業をやっているのかということでありまして、これが一番皆さん方には注目をされる場所であろうと思います。

【2ページ】

新市が誕生しましてから、名水の里、黒部市の将来都市像「大自然のシンフォニー 文化・交流のまち 黒部」としてまいりましたが、それはしっかりそのまま踏襲をして第2次総合振興計画も進めたいと考えております。ここのところは、前市長とお話をして、この引き継ぎをやりたいと言いましたら、それはありがたい、ぜひこの将来都市像をもって市政運営をしていただけるとうれいと言っておられまして、私は私の思いでこれを引き継いだということでありまして、以下、基本方針6つありますが、これについてはもう少し具体的に話します。

【3ページ】

まず、基本方針の1番目「自然と共生し、安全で安心して暮らせるまちづくり」であります。今市が考えておりますことは、防災行政無線をデジタルにしなければならないということです。現在アナログでやっているのは、県内15自治体の中ではほとんどありません。黒部市はいろいろなことがあり少し遅れました。パナソニック製の旧黒部市、沖電気工業製の旧宇奈月町の2つで現在やっておりますが、これを整備し、平成34年度にはデジタル化を実現したいと思っております。今皆さん方がご家庭でご使用のアナログは平成34年の11月頃で終了にするということでありまして、

それから、来月12月には安全安心の拠点となる宇奈月消防署の竣工式を行います。

次に基本方針の2番目「地域の活力を生み出す産業育成のまちづくり」であります。

非常に今、農業に関心が寄せられています。ご案内のとおり、米の新品種「富富富」であ

ります。富富富につきましては、一等米比率が99%を超えるという大変高い数値が出まして、県はスタートの年ということで、平成30年度は1,000haやりたかったが、終わってみると、469経営体518haで、そのうち黒部市では46ha、31経営体でありました。これは、その当時、私も県議会議員でありましたので、関係者に聞くと、1000haやりたかったがいろいろな条件があつて、その条件を農業者がうまく取り入れることができなかつたため、目標の半分強にしか到達できなかったということが実際のところですよ。富富富は総合的には非常に評価が高いです。皆様方もほとんどもう食されたかと思いますが、確かにおいしいです。問題は来年どうするかということで、今ちょうど来年作付けする方を集めています。来年は1000haいきたいと言っていますが、農薬や肥料、あるいは収穫の問題などがあり、目標に達するかは非常に微妙なところだと思います。ただし、全体的には評価は高く、今年の厳しい自然環境の中でもしっかりと育ちましたので、私としては1000haに近づくのではと考えています。ぜひ、今日ここにお見えになっている黒部の農業者の方には富富富に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。それと、来年の2月頃にもうひとつ山がきます。それは、米の食味ランキングです。残念ながら、富山米がおいしいと言われながらも、食味ランキングではコシヒカリは2年続けて特Aを逃しました。ランクは特A、A、A'、B、B'とあります。全国的にどのお米をみても、BやB'は話にならず、特AかAかA'です。圧倒的にAが多くなってきました。その中でコシヒカリが来年の2月に食味ランキングが発表になった時に特Aが取れるのかどうか、併せて富富富はどうなのか、これは知事を含めみんなが非常に心配しているところでもあります。何とか特Aをとってほしいと願っております。

それから、黒部市に転じて、工業関係では、新石田工業団地が約38,200haあります。団地を3つに分けているのですが、1か所には企業が入ることになったのですが、あと2か所はまだ決まっておきませんので、皆さんのお力も借りながら、早く企業にきていただいて、仕事を始めていただければ雇用の拡大にもつながり、ありがたいと思っております。

小水力発電も関心を持たれていますが、市としては宮野用水と黒瀬川をやっております。それ以外に黒部川左岸土地改良区でもやっております。

【4ページ】

基本方針の3番目「都市基盤の充実した住みやすいまちづくり」であります。

道の駅の整備については、市民の方も非常に関心を持っておられます。国道8号線の堀切交差点の海に向かって右側に整備いたします。すぐ隣に総合体育センターがあります。

国道の道の駅は、県内ではカモンパーク新湊は皆さん行かれたことがあると思います。そこからは約70kmあるここに国土交通省の認可を得て、整備をしようとしています。大事なことは建てた後、この施設が有効に活かされるということでもあります。順調にいけば、平成33年度中にオープンできないかなという思いがあります。

次に、基本方針の4番目「健やかで笑顔あふれる、ぬくもりのあるまちづくり」に行きます。まずこの中では、電子カルテの推進であります。地域医療をしっかりと推進していくためには、電子カルテによる医療連携ネットワークを拡充することが大切であると思っております。

それから、子育て支援です。今、黒部市が考えていることは、来年4月から、高校生世代、つまり満年齢18歳を迎えられる年度末まで、医療費（入院・通院）を無料化しようとしています。現在は中学生まで無料です。このような取り組みをしている自治体は、県内15市町村

の中で朝日町だけです。小矢部市はこの10月から高校生の入院だけを無料化にしました。お隣の入善町は、来年の春から高校生まで医療費を無料化したいと言っておられます。したがって、県下10市ある市の中では、我が黒部市だけが来年の4月から高校生までの入院費、通院費を無料にしようとしております。これについては、先の市議会で議員の方々に制度改正の議決をいただいておりますので、これからいよいよそれに向けての予算を3月に決めるということでありまして。ここまで議員の方々に了解を得ておりますので、よもや反対されることはないと思っております。来春4月にはスタートできると思っております。

それから、もう一つ「孫とおでかけ支援事業」というのがあります。私はこれを知らなかったのですが、市長になってからある方から電話がありまして、「市長、ほかの市では、おじいちゃん、おばあちゃん、孫と一緒にいったら、施設の入場料・入館料が無料になるのに、私たち黒部市民はお金を払ったけど、これはどういうこと？」と質問がきました。そこで、あわてて調べました。すぐわかりました。要するに、お互いの市とお互いの市で、この施設とこの施設とこの施設は、おじいちゃん、おばあちゃんと孫が来たら無料にしよう。そして、言う以上は、こちら側もそれなりの施設を持たないとバランスがとれないので、要求するだけではできません。そこで、黒部市から出したのは、市美術館、セレネ美術館、歴史民俗資料館、吉田科学館、YKKセンターパークです。センターパークは公的施設ではありませんが、YKKさんには、ファスナー作り体験料の800円を400円にさせていただきました。「孫とおでかけ支援事業」に参加していないのは、県内15市町村の内、黒部市と2つの町だけでありましたが、結果的に黒部市も参加できることになりました。しかし、これには予算が伴います。無料にする分だけ市が負担しなければなりませんので、予算が議決されれば4月以降にスタートできます。

それから、保育料については皆さん関心が高いと思います。来年10月に消費税が10%になることは、ほぼ既成の事実と申し上げてよいと思います。一般の方々が誤解されているのは、国が保育料を無償化すると言っているのだから、0歳から2歳は別にして、3歳から5歳はすべて国が面倒をみてくれると勘違いをされています。国が言うのですが、実際の負担は国と県と市町村が負います。現在、全国市長会では「国が言ったのだから、せめて消費税が上がった10月から半年間（つまり平成32年3月まで）は、国が全部負担しなさい。」と国へ要望しております。ただし、それが通るかどうかはわかりません。いずれにしても、無償化となった際には、国と県と市町村の負担割合が一番問題となってきます。いかに市町村の負担を軽くできるかというところが勝負であります。

【5ページ】

次に、基本方針の5番目「豊かな心と生きがいを育み、人が輝くまちづくり」であります。

ここで言いたいことは、学校の統合です。2020年、オリンピックの年の2月に、黒部市にある4つの中学校が2つになるということをご存じのとおりであります。鷹施と高志野が「清明中学校」に、宇奈月と桜井が「明峰中学校」になります。心配しなくてよいことかもしれないかもしれませんが、過去の経験からすると学校が統合されたときに、生徒間で何か変ないがみ合いや、いじめが起きたという事実があります。そのようなことが絶対に起きないようにと、今一番思っています。地域の皆さんや保護者の方にもしっかりと支えていただいて、統合してよかったと言われるように、行政としてしっかりとやっていきたいと思っております。併せて、通学の問題もありますので、これは鋭意内部で検討しておりまして、もうしばらく時間

がかかると思います。

それから、生涯学習について私は非常に気にしております。なぜかと言いますと、若い頃からずっと青年団運動で飛び回っておりまして、私は政治家になるつもりで青年団に入っていたわけではありません。結果、政治家になりましたが、青年団の中で育ってきたような人間です。個人的な感覚かもしれませんが、生涯学習の重要性をひしひしと感じております。青年団運動を通じて、子どもたちとも付き合い、あるいは当時大変多かった婦人会とも付き合いしました。また、全国地域おこし団体連絡協議会の会長や事務局長とも付き合いしてきました。それらを包括的に考えて生涯学習というのは極めて重要であるということです。したがって、同年代でやっていく場合もありますが、年代が混じって何かやれることはないのかといったところで、新しい形の生涯学習を進めていけたらいいなと思っております。

それから、基本方針の6つ目「市民と行政がともに支えるまちづくり」であります。

もちろんUIJターン、移住、定住、交流の促進、これをもって人口減を極力止める。あわよくば、1人でも2人でも黒部市民を増やしていくといった取り組みを市民の皆さんと共にやれたらいいなと思っております。

それから、そのための一環の施設と申し上げてもいいですが、第1次総合振興計画から引き継いでおります「(仮称)くろべ市民交流センター」は、黒部市にとっては大きな拠点施設になります。黒部市は、コンパクトシティーモデル都市に国から選定されました。官と民が連携をしてうまくまちづくりをしているということが高く評価されました。その民の大きな力はYKKです。パッシブタウンを建設し、本社機能の一部を黒部市にもってきたと同時に、行政と一緒に地域公共交通機関を見直し、既存の地方鉄道、あいの風とやま鉄道に合わせて、バス路線を開拓してきました。それらをうまく使っていくと市民交流センターは相当生きてくるだろうというのが国の評価です。それで私は欲張るのです。市民交流センターだけではダメだと。新しい市庁舎との有機的な結びつきをもちながら、まちの核として進めていくことが大切だと考えております。

以上、これが6つの基本方針であります。

【6ページ】

ここからは、私のテーマとしております「健やか・展やか・朗らか黒部の創造」であります。

【7ページ】

まずこの中(健やか黒部)で言いたいことは、なんといっても健康寿命・体力の向上であります。

私は医者ではありませんが、野菜をもう一皿食べるなど、食生活を改善していくことは、重要だと思っております。人間が生きていくことは「食」です。衣、食、住はどれも大事ですが、「食」が一番大事です。それから、いかにして、たまにではなく、日常的にスポーツ・運動をするかということ。もう一つは、あらかじめ健康診断や人間ドック等をしっかりと受けることが大事ではないかと思っております。そんなことを言っているが、私はやっているのかというと、実は、日常的な運動は毎日やっています。長い時間ではありませんが、内容は秘密です。

健康寿命ということをなぜ言うかということ、今、国の方も、人生100年時代ということで、今年の長寿者、100歳以上の人口はどうであったか、毎年、厚生労働省が9月15日の「老人の

日」に公表しているデータを見ると、69,785人。そのうち女性は61,454人。比率にして88%強で、100歳以上の方の10人のうち9人が女性です。富山県も同じように、759人中、女性は665人、約87%であり、国とかわりません。ただし、意外であったのは、この100歳のデータを取り始めた時は、1963年の老人福祉法を制定した年で、この年、100歳以上の方は153人で、その時も女性の比率は86%でありました。1963年の153人と比較して、今年は456倍となっています。このような時代でありますから健康寿命・体力向上は大事ということになります。そのもとになるのは、食べ物であり、水だと思いますので、この名水百選に選ばれた我がふるさと「名水の里黒部」の名水はこれからもしっかりと育んでいきたいし、良さを啓発していきたいと思っております。

【8ページ】

次に、展やか黒部であります。

ももいろクローバーZ「ももクロ春の一大事2019」について、どういう経緯で決まったかと言いますと、去年までは主催者が開催場所を選んでいましたが、今年から自治体の手あげ方式になりました。それで今年開催されたのが滋賀県の近江市でした。そして、来年の開催地に黒部市が手をあげたところ、全国で38か所の中から黒部市が選ばれました。勝手に選ばれた理由を考えてみますと、一つは、毎年名水マラソンに1万人を受け入れているという実績、二つ目は若い人が元気であること、三つ目は、会場の宮野運動公園陸上競技場から新幹線駅が意外と近いということも作用したのではないかと思います。これが決まったのは大変うれしいですが、私の中では非常に残念なことがありました。主催者がこの8月開催のももいろクローバーZのコンサートに、昨年開催地の市長と今年開催地の近江市長と来年開催地の黒部市長の3人に来てほしいということで、千葉ロッテのスタジアムに呼ばれたのですが、私は北海道根室市へ市長就任の挨拶へ行っていたために、コンサートへ行けませんでした。代わりに能澤副市長に行ってくださいました。能澤副市長はラッキーです。ももクロに会って、何万人のもの前でステージに立って挨拶ができた能澤副市長はきつといい気分だったと思います。

4月20日、21日の2日間で1万5千人ずつ、3万人が黒部に来ます。大変な経済効果があります。これは黒部市を売り出す絶好のチャンスであります。したがって、これをやる以上は、黒部市は主催者ではありませんが、サイドからしっかりと支えることを4万2千市民の皆さんにもお願いしたいと思っております。

【9ページ】

次に、朗らか黒部の創造であります。

いろいろなことを言いましたが、大事なことは市民の安全、安心です。そのためには、あらかじめ防ぐ「防災」、あるいは災害を減らす「減災」。この取り組みを日常的にやっていくことは大事であります。今年、前沢地区で総合防災訓練がありました。前沢地区の方が献身的に意欲的に真剣にやっておられました。あの姿を見ていますと、大丈夫だなと思いました。黒部市においても各地区に防災会がありますので、ぜひ定期的に防災、減災の取り組みをしていただきたいと思います。

それから、ものを作ったり、動かしたりするのは人であります。人材をいかに育成するかという部分では、今、黒部市も高校生に対する奨学資金、大学生に対する奨学資金の制度を持ってあります。高校生には給付です。大学生は貸与ですから、何年かかけて返していただ

きます。この制度を変える気はありませんが、高校生、大学生の対象人数が果たしてこれでよいのかということ一度、予算を作る前に点検したいと思っております。つまり、一定の条件が無いと給付対象にならないわけです。誰でも彼でも給付するのは不平があります。たとえば、生活が厳しいとか、生活は厳しいけど成績は優秀だとか、そういった条件があります。その条件をクリアしていても、市に予算がないために給付の対象にならないということがあるとすれば、非常に不幸なことです。ですから、1人でも2人でも、たった1人はいないです。されど1人です。この1人の高校生を、この1人の大学へ行きたいという子をどうするか。このことは、大変恐縮ですが、家の事情で大学を受験できなかった私としては、非常に強い思いを持っております。可能な限りそのような人を救ってあげたい。なんでもかんでもすべてそこに予算を付けるわけにはいきませんが、政治は限りなく社会的に弱い人を救うというのが基本だと思っております。

それから、安全、安心のことを先に申しましたが、学校安全パトロールを全地区で非常に頑張らせていただいております。しかし、高齢化などでなかなか動けない人が出てきています。それをどうカバーするかということで、先日、黒部市わんわんパトロール隊を発足させました。犬をお持ちの方は、散歩の際に、犬にバンダナを付けて、この犬は警備しているぞと、言わんばかりに、犬と一緒に学校近辺を回っていただくという協力体制のもと、黒わんがスタートいたしました。別のくろワンもありますが、両方ともうまくいくように願っております。

あまり耳慣れない言葉かもしれませんが、シアター・オリンピックス2019の開催です。これは、来年限定の開催となります。世界各国で活躍されます演出家や劇作家による国際的な舞台芸術の祭典です。予定では来年の8月下旬から9月下旬の1か月の間に開催されるのですが、これまでこの取り組みの中心となっていたのは、富山県では南砺市利賀です。来年は利賀と合わせて、黒部市も会場となりました。黒部市においては、黒部宇奈月国際会館セレネ、前沢ガーデン円劇場の2か所が会場です。今のところの予定では、世界の20か国からレベルの高い演劇団がお越しになられます。開催回数は利賀の方が多いと思いますが、黒部でも何回か開催されることになり、なかなかこのようなものを観る機会はないと思っておりますので、ぜひ期待をしていただければと思います。

先ほどからずっと話をしてきました、私は観光の話を全然しませんでした。市長になってから大変ショッキングなことがありましたので、それを話しながら観光の話をしたと思います。

4月23日に市長にしてから1か月経った頃、福井県あわら市で北信越市長会がありました。全部で69市あります。そこで、あわら市のある女性の方が私のところへ来られまして、「黒部市の市長さんですか。」と、いろいろな話をしているうちにトロッコの話になりました。その女性が「実は、友達とこの前トロッコの話をしていまして、1回行こうという話をしていたんです。」と、私は「お待ちしておりますからぜひどうぞ！」と話していましたが、その後が悪かった。「黒部市って、石川県ですよ。」と言われ、大変ショックでした。しかも、北信越5県の福井県あわら市の方に言われたのです。しかし、後からよく考えてみたら、ごく一部にはそのような方もまだおられるということと同時に、黒部市は伸び代がいっぱいあるのだなというふうに変えまして、皆さんと共に、また職員にもっておりますが、いろいろな公務やプライベート等で外出した際は、最初と終わりでいいから、一言くらい黒

部市を宣伝してきてほしいと。4万2千黒部市民総あげで観光大使にならないといけないのかもしれませんが。皆さん方もそのような思いで、忘れなかったら、黒部にこんなところがあるいよ。いらっしやい。という言葉を一言発して、帰ってきてほしいなと思います。

観光は間違えなく今、行政の中では中心的な事業でありますし、いかに民間とタイアップして力をつけてやっていくかというのが地域間競争であります。ほとんどの自治体で必死になって取り組んでおります。石井知事の抱負をみてもわかります。富山県の宣伝に必死になっています。

実は明後日から初めて、黒部市長と魚津市長と入善町長と朝日町長の2市2町の首長が台湾へ売り込みに行ってきます。どれくらい宣伝できるかわかりませんが、挑戦しないことには何もなりませんので、にいかわ観光圏協議会というのがありまして、会長が私です。黒部だけ吐出したことを言うのはまずいですが、朝日も入善も魚津もたてて、一生懸命黒部を宣伝したいと思っております。時は、タイミングが非常にいいと思っております。それは、まだ4、5年かかりますが、4、5年後には、樺平から関電黒部ルートを抜けて黒部ダムへ行けるようになりますので、このことも当然、先のことではなく、もう身近ですよと話したい。これまでは、台湾に行ったらいつも立山黒部アルペンルートの宣伝ばかりです。我々も樺平までしか言えなかった。しかし今度は、そこを抜けてダムまで行けますよ。と言えます。私も実際に何度も黒部ルートに行っておりますので、十分説得のできる説明をして帰ってこられると思っております。

新幹線のように速く話をしましたが、私の持ち時間をはるかに越えましたので、このあたりで私の話をいったん閉じさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

【事務局】

ただいま、市長からテーマについてご説明がありました。

この後会場の皆様から、ご意見やご提言をお受けいたしたいと思っております。

発言される方は、挙手のうえ、係の者がマイクをお渡ししますので、マイクを受け取られてから、地区名あるいは所属団体とご自身のお名前に続き、ご意見を述べていただきますようお願いいたします。

それでは意見交換を始めたいと思っておりますが、事前に発言通告を3名の方から受けております。まず、その方々から順次、発言いただきたいと思っております。

また、タウンミーティングでは、できるだけたくさんの方からご意見を頂戴したいと考えております。発言は、お1人2分以内で、要点を簡潔にお願いいたします。

【女性団体連絡協議会、富山県男女参画推進委員 Kさん】

以前、市長との意見交換会の際に、イクボス宣言の話がされました。その時に思ったのですが、イクメンと言われる若いお父さんは、積極的に育児や家事を分担してやってくれるのですが、その上の世代のイクジジ、そのもう上のイク大ジジなどは、育児や家事は女の仕事と思っておられる方や、協力は理解していても何をどうしたらよいかわからない

など、まだまだ女性の負担が大きい社会だと思います。私の周りの方でも、残業して帰りが遅くなり、食事の準備をして、洗濯、掃除と、疲れているのに自分の睡眠時間を削って仕事との両立をしている女性が多くいます。女性が働きやすい環境を作るために、男性に対してどのような指導や対応をされているかお聞きしたいと思います。

【三日市・Iさん】

私は日本語教室 in黒部の代表をしております。日頃から地域日本語コーディネーターとして、地域に生活している外国人が住民と共生できるように、分かり合える日本語を使って、優しい日本語を普及しながら、外国人と日本人の誰もが暮らしやすいまちになるようにと市政にかかわっております。

今日の市長のテーマの中で「豊かな心と生きがいを育み、人が輝くまちづくり」という中で、国際化への対応を考えているということが提示されておりました。あまり説明がなかったので、ご質問させていただきたいと思います。現在黒部市には400人近くの外国籍の方々、外国人が在住されております。外国人の人数は、日本全体や富山県においても増加傾向にあります。現在、入管法の改正に伴って、外国人労働者の大幅な増加が見込まれており、黒部市でも定住する外国人の増加が予想されます。黒部市では、外国人観光客に向けての対応として、看板やパンフレットの多言語表記をしているということはお聞きしています。ですが、定住者への対応というのはどのように考えておられるのかお聞きしたいと思います。

それともう一つ、災害の話にもかかわることなのですが、私たちの活動の中で、外国人と共に災害をテーマに活動したことがあります。そのときに、外国人のほとんどが災害発生時に情報を入手することができていませんでした。また、どうしたらよいのか全然わからないというのがほとんどでした。活動メンバーが、防災訓練をしているある地域の責任者の方に、外国人が来たらどうしますかという質問を投げかけたのですが、その責任者の方の回答が、外国人に対応することは想定をしていない。もし来てもらったら困る。という答えでした。たぶん、そういった意見の方はここにもおられるのではないかと思います。このことから、災害時の外国人は言葉が通じないということで、混乱や孤立をすることが予想されます。黒部市では、災害時の対応はどのようにお考えかについてもお聞かせいただきたいと思います。

【荻生・Mさん、生地・Iさん】

私たちは、今年から「くろまる」というマルシェを開いているのですが、このマルシェの運営自体はボランティアで、子育てをしながら好きなことを仕事に活かしたいと考えているお母さんたちや起業したいと思っておられる方たちと一緒に、黒部市内の魅力ある場所を移動しながらマルシェを開催しています。マルシェをできれば皆さんに知っていただきたいと思い、まず自分たちと同じように子育てを頑張っているお母さんたちに知っていただきたくて、保育所へチラシの配布をお願いしようと思い、こども支援課の窓口に行ったら、民間はちょっとという一言で断られてしまいました。これからは市民自らが企画して運営していくようなイベントはどんどん多くなっていきますし、魚津市や他の市町村ではすでに、市民が運営するイベントに対して応援しますというふうになってきているのに、

黒部市の窓口に行くと言われ、民間はちょっとという一言で終わってしまっていて、知っていただきたい方たちになかなか活動を知ってもらえないというのがあります。これから、市の方では民間レベルのイベントに対してどのような協力が可能かということをお聞きしたいということと、市役所の中でも課によって全然対応が異なっていて、市役所の中でも連携が取れていないというのも問題ではないかと考えていますので、それについてもどう対応されていくのかお聞きしたいと思います。

【市長】

ありがとうございました。いずれも私にとっては非常に勉強になる質問でありました。

まず、私自身の出身から申し上げますが、私は公務員でも役人でも何でもありませんでした。議員活動は20何年間やっていましたが、行政としては1年生ですので、私自身も今までやってきたからこうだとか、前例はこうだったとか、そういったことにこだわる気は全然ありません。むしろそのことを職員に理解してもらって、こういう時代だからこれからこうやっていかなければいかんよ。というふうにこれからやっていきたいと思っている矢先です。この7か月間というのは、そういったことを自分で調べるので精一杯でしたので、非常に新鮮な質問に私には聞こえました。

まずイクボスの件ですが、議会で「市長、イクボス宣言したらどうですか」と言われました。素直に受け止めることができまして、7月だったかと思いますが、私自身もイクボス宣言をしました。その中身のポイントは、私は物事を聞くボスになります。私は良いボスになります。私は市民や職員の幸せを願うボスになります。これを宣言しました。その後、副市長以下、各部長がそれぞれ個性のあるイクボス宣言をしました。この宣言をしたことによって、自覚が出てくるし意識も変わりました。今ほどの質問は、年代の上の方に対してどうするかということですが、残念ながら、おじいさんやおばあさんと一緒に住んでおられない方もいるでしょうし、住んでいる方もいる。ご質問された方は、どちらかわかりませんが、とりあえず身近におられると私は判断しました。ですから、こういったことをお話されてみてはどうですかね。年代に応じたことに目覚められるかもしれません。やってみなきゃわかりません。市長があんなこと言ったけど、何にもならなかったわ。と言われるかもしれませんが、言うてみるだけの価値はあるではないかと思えます。あと、これ以上言及したくないのは、その家庭、家庭によって、どのポイントがイクボスになってほしいか。どのポイントではイクボスになってほしくないか。というのがあるかもしれませんので、あまり立ち入ったことは申し上げません。この部分だけはぜひこうしてほしいな。というのがあるかもしれませんので、私もイクボス宣言をしたということで、参考までにしてほしいと思えます。

それから国際化の問題であります。

せっかくの質問でありましたので、ここで姉妹都市のことに触れてみたいと思えます。黒部市は姉妹都市にオランダ、アメリカ、友好都市は韓国と提携しています。国際都市を目指そうとしていることについてはお認めいただけると思えますし、市民憲章の中にも、一番最後にそのような項目が入っております。黒部市はずっと以前から国際交流が盛んなまちとしてやっております。民間の方も含めて海外へ進出している方も多いので、このことは大切にしていかなければならないし、先ほどおっしゃられました、出入国管理法の

問題が国会でも議論になっておりますが、これは間違いなく、富山県や黒部市にもそれなりの影響が出てくると思います。そのことも前提として、私にご質問されたのだらうと思います。

そこで、私も防災に関して言いますと、外国人の方だからといって排除するのは問答無用ですよ。その方も住民であります。私はむしろ今日ご質問されるとしたら、答えとして住民の方もあるいは外国人の方も積極的にそういう訓練に参加してほしい。お言葉が通じない場合は、態度などボディランゲージなどでお話をするにはできると思います。まずは、受入側に問題があるのかなと思いますので、各自治会の方々にはまかり間違っても「あなたは余所の国の人だから来なくていい」とか「対象外だ」とすることは、絶対してはいけないということをして市長から申し上げておきたいと思います。むしろそういう方こそ積極的にそういう場所に参加していただいて、住民との融和をはかり、コミュニケーションをはかり、何もない時でもいろいろな話ができ、たまには防災の話、減災の話ができるようになる状況をむしろ作っていただくことを期待しております、今のお話は大変私にも響きました。

補足して申し上げますと、今黒部市では中国、フィリピン、ベトナムの方が多いです。したがって多言語表記も非常に難しいんですね。どうしても最大公約数によってしまう。これは表記することを考えると、あまりたくさん書いてしまうと表記が難しい。看板などもなかなかまとめて表記をすることができるかな、と。非常に残念ですけども、そういう思いをしております。

ただ、世界の共通語として英語がありますので、英語は絶対でありますし、黒部市にどこの国の方が多いのか、どこの国の言葉を使っておられる方が多いのか、そういう状況をみながら、対応するのも大事であります。これからもっともっと多国籍な方がお越しになるような気がいたしますので、これは最大公約数を見つけながらやっていくしかないなと思っております。ぜひ皆様方も国際都市を目指しております黒部市でありますので、姉妹都市のアメリカ合衆国メーコン・ビブ郡、以前はスネーク市でしたが、ストウエスト・フリースラン市だけを意識せずし、他の国のことも意識しながら、ご指摘のあった取組みをしていただければありがたいと思うところであります。

なかなか「言うは易し、行うは難し」ですけども、双方ともにそういった歩み寄りが大切かなと思います。

それから「くろまる」の話であります。大変申し訳ありません。市役所の器の中でAという答え、Bという答えがあったということは、非常に申し訳ないと思います。今のご質問に関連して、最近黒部市は何を始めたかといいますと部長方、副市長、教育長で月に1回開催される庁議において、1つの部署だけでは解決できない問題があるだらうということで、各部署の部長が集まった全体のところで、テーマを出してそれを横断的に議論し、話をするにしております。今日もそれがありました。

例えば高齢者の問題。これについては市民生活部、そこだけではないだらうと。住宅の問題もあるでしょう。そういったことで横断的にやることをはじめました。

役所の悪いところは、縦割りなのです。冒頭申し上げたとおり、私は民間人出身ですから、それから議員としてよく見ていましたから、何をやっているのだと、議員としてよく言ってきたものです。おかしいじゃないかと。あっちこっちと言われ結局どこのという

ことを、絶対にさせてはならない。納税者である黒部市民に。極力それが直るように、心がけていきますので、まず一気にゼロというわけにはなかなかできないと思います。それから問題によっては、すぐ結論を出せないこともあると思います。ただし今申し上げたとおり、そういったことについては横断的に話をし、お互いに問題点を共有すると、認識を一にすると、そこから始めるという空気が今生まれているということは事実でありますので、それを念頭に置いていただきたいと思います。

それから皆さん方が行っておられます「くろまる」について私もあまり詳しく知りませんが、情報を得ました。非常に献身的によくやっておられます。ここで私から1つだけ、反例ではありませんけれども申し上げたいことは、ボランティアとしてやっておられることについて、普通は見返りを求めてはいけません。ボランティアというのはそういうものではありません。自らが進んでやって人のためにというのがボランティアでしょう。それをやることによって、何か返ってくると思うなら、それはボランティアではありません。

しかし、それが続いていき、見る人が見たらあれだけ頑張っているのだからどこかで助けてあげようよと、この空気は人間の世界ですから起きてくると思います。行政はそのくらいのぬくもりは持っています。したがって皆様方から、こうやってボランティアが出てこられたこと、それを見て、行政がこれは少し助けてあげるべきではと、あるいは民間の方でそうおっしゃってくださる方がおいでるかもしれない。それを私はこれからしっかり見つめていきたいし、あなた方の実践的活動については高く評価しております。以上です。

【事務局】

市長ありがとうございました。只今の市長の回答につきましてご質問いただいたお三方、いかがでございましょうか。何か補足でのご質問ございましたらお受けしたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは引き続き、会場の皆様からのご発言に移りたいと思います。ご発言をなさりたい方は挙手をもって意思表示といたします。

【黒部名水会・Nさん】

黒部名水会のものです。「名水の里黒部」宮野山の看板がありますよね、その件について発言させていただきたいと思います。

名水の里黒部、北アルプスより流れる清流、黒部川扇状地湧水群が、昭和60年7月当時の環境庁から全国名水百選に認定されました。私たち黒部市民はこの名水を守り、その素晴らしさを全国に広め、水は豊かな自然環境の源と発信してまいりました。宮野山の黒部宇奈月温泉駅に向かって立つ看板、「名水の里黒部」のことでありますが、あちらへ行ってよく見てみますと、鉄骨の骨組みは立派なもので、しっかりしているように見えますが、看板は色あせ、鮮明さが失せ、表面が荒れ、傷んでみすぼらしくなっております。黒部市にとっては大切な看板、予算計画をされ、手直しをお願いしたいものであります。よろしく願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。この際ですから、もうお一方か、お二方からご発言をいただきまして、その後に大野市長からご回答をさせていただきたいと思えます。他にご意見等ございませんでしょうか。

【日本語教室・ベトナム人】

私はベトナム人です。黒部市で働いています。今、日本語教室で勉強しています。日本語教室を開いていただきありがとうございます。私だけではなくて、今外国人が困っていることについて話をしたいと思えます。私も防災訓練をしたかったですが、案内がなかった。先ほど先生も言いましたが、自然災害が起こったとき、どうしたらいいかわかりません。ですから、できれば会社にそういったお知らせを送っていただけたらありがたいです。もう一つは、今ゴミの分別もよくわからないので、外国語の分別の案内が書いてあるものが黒部市にもあったら助かると思えます。例えばベトナム語で書いて、ベトナム人に渡すとか。今は英語などがありますが、私は英語がわからないので、私が欲しいと思うのは漢字がたくさん書いてあるのは読めないで、簡単な日本語で書いてあるもの、そして絵が描いてあるものなどがあると助かると思えます。

【事務局】

ありがとうございます。それでは今お二方からご質問とご意見等を頂戴しました。まずお一方、名水会の方から、名水の里の看板についてのご発言、またベトナム人の方については、災害等のご質問に関連しまして、告知やお知らせの方法ですとか、ゴミの分別等の簡単な日本語表記等について、ご質問ご発言があったところでございます。

よろしければ大野市長、ご回答をよろしくお願いいたします。

【市長】

まず看板の件です。一言で言いまして、亡くなられました荻野幸和元市長はものすごい先見の目があったなど、改めて思っています。高く評価し敬意を表したいと思えます。あの看板が立ってから相当経つのですが、新幹線が走ってから、なおあの看板の評価が高くなりました。私も自身も、あの名水の里の看板は目立っていいねと言われました。

ただ、今ご質問があったとおり、私も今どのような状態になっているのか見ておりません。考えてみれば相当年数が経っていますから、危ないという状態にまでなっているのかどうかわかりませんが、近いうちに見ておかないとダメかなと、今のご質問でありますので、改めて職員に指示を出しまして、できれば私自身も一緒に行って、雪の降らないうちに1回行ってきたいと思えます。

ただあの看板は大きいので相当お金がかかるなと思われます。しかし落ちてしまうと大変なことなので、そのようなことがないようにどうするか、補修で対応できるか、まだしばらくもつのか、そういったことも含めて、新幹線にもかかる大変重要な看板となっておりますので、非常にいいご指摘をいただきました。ありがとうございました。

それからベトナムの方、ご質問ありがとうございました。まず安心しましたのは、あなたの場合はかなり日本語が上手ですから、住民とのコミュニケーションを普通に取れると思えます。ということは、自ら意欲的に町内のお世話役、役員の方といった方とお話をさ

れるのが一番いいと思います。しっかりとコミュニケーションを図れる日本語でお話をされておられますので、そのほうがお互いに顔を知りあえるし、この方がここに住んでおられるのかということで、お互いの安全安心ができると思いますので、看板を作ってくれたからよかったということ以上に価値があると思います。お互いにご努力をお願いしたいなと思います。以上です。

【事務局】

只今、大野市長からお二方へのご質問の回答ということで、ご発言をいただいたところでございますが、何かお答えに対してさらにご質問等ございましたら、よろしくお願いたします。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

引き続きまして、会場の方からご発言をお願いしたいと思いますが、ご意見等ございましたら、挙手をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

【サッカーチーム監督・Tさん】

KUROBE FCという中学生のサッカーチームの監督をしております。現役時代はYKKのサッカー部で、大野市長にはファンクラブの会長を務めていただきお世話になりました。

普段から中学校のグラウンドを使って練習をさせていただいているのですが、先ほどお話がありましたように、中学校の統合があって、鷹施と高志野が合併して清明中になった後、鷹施中学校の利用方法についてどのような活用方法を検討されているのかということをお聞きしたいのと、よく黒部川の河川敷のグラウンドを利用させてもらうのですが、手前に土のグラウンドがありまして、たいぶ老朽化が進んでいて、たぶん利用者もほとんどいないと思うのですが、そういったところの再整備を検討されているのかということも合わせてお聞きしたいので、よろしくお願いたします。

【事務局】

ありがとうございました。もう一方、お二方ございましたらどうぞ。

【黒部青年会議所・Sさん】

先日、富山県議会でありました青年議会を観覧させていただきまして、若い方が、黒部からは2人参加されまして、その中でいろんな産業、水産もそうですし、農業、工業など、いろんな産業の中で必ず言われたのが、人口減の中で効率的に生産性を上げていくために、どうしてもAIであったり、ICPであったりとかそういった新しい技術をどんどん使っていかなきゃいけないよねと、そういった技術の共有のためにも、ぜひ行政としても働きかけをお願いしたいという意見がたくさん出ておりました。

その中で2つ質問なのですが、こういった産業における技術を活用するためには、1つは自発的に招くことも重要なのですが、もし可能であれば、行政としてどういった支援が可能なのかという点と、そういった技術を下支えするためには、どうしてもインフラの整備が必要となってくると思いますので、黒部市におけるインターネットをはじめとしたインフラは、市長の目からみて十分なのかどうか、この2点についてももし可能であれば、ご質問させていただきたいと思います。

【事務局】

もう一方くらい、ございませんでしょうか。

【生地・Iさん】

先ほどご意見をいただいたくろまる実行委員のものです。

ご質問したいことがあるのですが、くろまるを始めたきっかけとして、黒部市内の、先ほど市長がおっしゃった観光に関して、他の県に行ったときに、黒部市にはこんないいところがあるよと一言でも言ってきてねというお話があったのですが、私は小学校6年生まで埼玉にいて、中学から黒部市にいて、黒部市にはすごくいいところがいっぱいあるなと感じて過ごしてきたのですが、同世代の30代の人たちや、もう少し上の人たちに、黒部市内のいい場所ってどこか聞いたときに、なかなか答えられない、出てこないというかそんなにいい場所ないよって、他の県と比べてそういうふうになってしまう方が多くいるように感じてしまうんですね。

市外の人に対して黒部市にはこういういいところがあるよというふうに、知っている人は伝えられると思うのですが、黒部市にはこういういいところがあるんだということをおの先子供たちに、孫たちの代までずっと引き継いでいくために、黒部市はどういった活動をしていきたいと考えているのか、小学校の学習でこういう場所に行くというのはちよくちよくあるんですけども、それをずっと根付かせていくために、それからまたさらに観光に力を入れていくために、どういう活動をされていく計画があるのか、もしお聞かせいただけるのでしたらお聞きしたいなと思います。

【事務局】

ありがとうございます。今お三方からご質問を頂戴いたしました。まずはIさんから中学校のグラウンド利用に関しまして、主に鷹施中学校の活用、並びに河川敷の公園につきまして。また青年会議所のSさんからは、新たな産業技術の導入に向けての行政としての支援と、またインターネット環境等のインフラの整備についてのご意見。またIさんからは、観光資源等々に関するご質問を頂戴したところでございます。

大野市長、どうぞよろしく願いいたします。

【市長】

できるだけ簡潔にお答えいたします。

Iさんお久しぶりです。いろいろお世話になりました。ありがとうございます。サッカーでお世話になりました。子供たちも頑張っていると思います。

中学校については、今正直なところ市は、2校をきっちりとスタートさせる、そこに全身全霊をかけています。したがって2020年4月がそのスタート、その後におそらく行政側と地元、つまり鷹施中学校があるところ、もう一方の宇奈月中学校も一緒です。この利用の方法などを含めて話し合いに入るとお考えです。ですから、そここのところは、申し訳ないですが全く手をつけておりません。いつかはきっといいお答えができるのだと思うのですが、地元は地元で何か考えておられる可能性もありますので、一方的に行政だけで、何

かをやすることはありえないと思います。

そこで河川敷のことですけど、私もたまにあそこに行きます。今、Tさんご指摘の場所は、私も承知しています。真ん中のところはそこそこ芝生が生えているのですが、担当職員に一度聞いてみて、どのくらいどのように利用されているのかなどを調べて、どういう対応策があるのかを考えさせていただきたいと思います。今日はこの程度でお許しください。

それから、インフラ、インターネットのお話ですね。さすがに青年会議所らしい質問がありました。このことは、私から言わせると、民間と行政が連携しながら前へ進めていくことが大事です。つまりは、人口知能もありますから、お互いに知恵を出し合って、どのように先に進めていくかと。場合によっては民間が先に行っていることもある。あるいは、行政マンが勉強して先に行っている場合もある。この良さを活かしながら、お互いに黒部市にとって、どういうやり方が一番良いのかということ、私は模索していくべきだろうと思います。

したがって結論的には、行政が先だとか、民間が先だとかではなく、良いものを取り上げていくと。ただし予算がかなりかかりますから、言われたから行政がすぐできるというものではないですけども、職員も絶えずこのことについては、意識して勉強しておりますので、スピード感をもって正確に物事を伝えるために、どのようなインフォメーションテクノロジーを使うか、情報通信を使うか考えておりますので、ぜひまた民間の力で、行政にご助言いただければありがたいです。よろしくお願いします。

それから最後にIさん、ご質問に立たれてありがとうございます。遠慮なさらなくてもよろしいですよ。なかなかこういう機会はありませんから、ありがとうございます。

観光に力を入れていく、良くいうと黒部市は、海、川、里、山と非常に黒部川扇状地の中に、人に宣伝できるものがいっぱいあるのです、海の中を含めて。それともものついでに言いますが、富山湾そのものが世界で最も美しい湾クラブに加盟していることを多分皆さんもご存知だと思います。

しかしながら、私が県議会議員としてみていたのは、そのための県の取り組みが射水市・海王丸のある新港、ここを中心に偏りすぎているのではないかと私は注文をつけました。富山湾というのは全部だよと。県議会議員から市長になってもその思いは変わりません。幸いなことに来年、富山県でその世界で最も美しい湾クラブの総会が開かれます。その時には、残念ながら、予想通り中心会場は新港であり、高岡です。だったら、東だって富山湾でしょう。世界から集まる関係者が、新川にも来てもらえるような仕組みをしてくださいと。このときに、本音では黒部に来てほしいと言いたかったのですが、これはあまり言うと露骨ですから、要望は新川としたのです。新川というと、大野市長は黒部と言いたいのを我慢して新川と言っているのだなと、だいたい県の職員は頭が良いからわかるのです。

それで、今実際に準備されておりますのは、英語でいうとexcursion（エクスカージョン）、小旅行です。その世界で最も美しい湾クラブに合わせた小旅行のコースが、新川のこの黒部エリアを含めて作られています。選ぶのは来られた方です。誰がどこを選ぶのかは、その人次第ですがコースにちゃんと含まれています。

そういう状況にありますから、なかなか1つ、2つ、3つ、4つ、5つと順番に説明す

ることは難しいです。そういうときは黒部市が作り出している観光のパンフレットもある。こういったものをぜひ利用していただいて、その中からピックアップし、これはぜひと思うものを宣伝していただければと思います。全部宣伝すると大変時間がかかりますから、あとは見ておいてねとパンフレットを渡す。これも方法だと思います。

黒部の海岸から眺める夕日は非常に美しいです。くろべ牧場まきばの風、あそこへ上がって、素晴らしい空気を吸って、あそこから眺める夕日も美しい。これを実践している人は、自信を持って言えると思います。富山湾で相当な種類の魚が獲れる。500種類とも言われている。天然の生簀と言われている。そこから揚がる黒部の魚もおいしい。宇奈月温泉まで行っている。宇奈月温泉には他には負けない温泉がある。こういったことのうち、どれかをピックアップして、その方にぜひここで一つ試してくださいねと申し上げて、あとはなかなか時間がないですから、パンフレットをお渡しするという方法も私はあると思いますので、ぜひこのあたりはご協力をお願いしたいと思います。

そのために、何の遠慮もなく市役所にどんどん来てほしいです。待っていますから。職員が皆さんに会うことを。そのようなことを申し上げておきたいと思います。

【事務局】

ありがとうございました。ご質問いただいた皆さん、ご回答についてはよろしいでしょうか。最初にお話ししておりましたとおり、終了時間が近づいて参りました。もしよろしければ、あとお一方、ご質問を頂いて、会を終えたいと思いますが、どなたかいらっしゃいませんか。

【荻生・Mさん】

今日来た目的とはまた別の話で、除雪に関してなのですが、自宅は荻生の山とは言えない場所にあって、除雪が入らないところでした。それを市に話をしたら、家が1軒しかないから、（除雪車を）通せないと言われました。家が1軒しかないというのは、優先順位で落とされてしまうのかもしれませんが、うちは子供が4人いて通学にその道をどうしても使わなければならない環境下にあって、家が1軒しかないという理由だけで、今言っている道路が私道ではなく、農道という括りではあるのですが、コンクリートでちゃんと整備されていますし、大型の除雪も入れる道路であるのですが、わかりやすく言うと、漢字の「日」という字の真ん中の一本のような道でした。そこに家が1軒しかないという理由だけで、周りの四方は全部除雪が入るのに入らないということが、何年も続いていました。

そういったことについては、市ではニーズに応じてちゃんと毎年必要性というのを確認しているのかというのが疑問に思ったのと、例えば高齢者の方が1人で住んでおられる家に対して、例えば山奥の1軒家だったとかという理由で、除雪を後に回しておられるのかなと感じたのです。これから高齢の方だけで暮らす家も増えてくると思うので、毎年きちんと市民にニーズを確認と言いますか、必要性を確認してから、除雪というのを毎年検討していく必要があるのではないかと感じていますが、市ではどのような手続きを毎年行っておられるのですか。毎年書類上で繰り越しておられるのではないかなと思う部分があったので、市役所を出て必要性をきちんと確認するというのをさせていただきたいなと感じています。

【事務局】

ありがとうございました。只今、冬期間の除雪につきましてのご質問だったかと思えます。これに関しまして、市長から回答をよろしく申し上げます。

【市長】

どこも同じですが、だいたいこの頃に今年の冬を迎えて除雪をどうやるかという除雪計画を立てます。いろんな道路があります。市道、県道、国道。当然国道は国がやります。県道は県がやります。市道は市がやります。市道以外の道路があります。私道もあります。そういうところまでは除雪は致しません。ですからその辺のことで、きちっとどこをやるかといった計画を立てています。ただし今のお話の中で、残念ながら市長である私といえどもよくわかりませんでしたので、この会が終わった後、今日はその職員は来ていませんけど、ここは縦割りではなくいいところなので、その部署にちょっと聞いていただいて。

【荻生・Mさん】

もう何度も窓口には行っていて、電話では埒があかなかつたので、窓口に行って、話をし、なんとか通してもらうことにはなったのだけど、多分うちだけじゃなくて、必要としておられる方はいらっしゃると思うので、その確認をぜひ、除雪の大変な時期になる前にしていくことが市民の命を守ることにつながるのではないかなと思っています。

【市長】

確実に言えることは、市の担当職員は総合的な判断をして、しっかり除雪計画を立てております。その中でそういうご意見があれば、どう決めるか検討させていただきます。

よくわかりました。ありがとうございます。後から担当部にまた伝えておきます。ここは横断的でいいところです。今日は全く所管外の人に来ておりますけれども、大丈夫です。

【事務局】

それではこれまでいろいろな方からご意見を頂戴いたしました。予定の時刻を過ぎております。これをもちまして、意見交換を終了させていただきたいと思えます。

それでは本日のタウンミーティングの閉会にあたりまして、本日お集まりいただきました皆様への御礼を含めまして、大野市長から一言ご挨拶を申し上げます。

【市長】

皆さん大変お疲れのところ、大変長時間ありがとうございました。私も申し訳ない、こんな状態でお話をしております、大変恐縮でございます。

最後はあまり長い話はしませんが、とにかく市長となりまして初めてこの場を設けさせていただいた。そしてこんなにもたくさんの方にお越しいただいたことを、まず心から改めて感謝御礼を申し上げます。ありがとうございます。

そのうえで、今、市長になりまして初めて平成31年度の、あえて申しますけども、新年度の予算編成に取り掛かります。その大きなところだけ皆様にお伝えしておきます。先ほ

どから私がいろいろとお話をしておりますと、だいたいご理解をいただいているのではないかと思います。気持ちとしては、ハード事業からソフト事業へもう少し予算をシフトしたいと思います。

政治家というのはハード事業をやりたいです。要望も多い。やれば目立つ。だから、ハード事業をやると住民も見えてわかりやすい。そのことにウェイトを置きすぎると、今、市民の方が求めておられる、学校教育の在り方、保育の問題、医療費の問題、保育士の問題、そういったところに予算をシフトできなくなってしまう。

したがって、多分、新年度予算を見られた時に、今までの黒部市では、ずっとこの道路は1年で直してもらえたのに、なんで大野が市長になったら2、3年かかるのだと言われると思います。そういう批判は出ることをあえて覚悟して、私は予算編成に臨みたいと思います。

危険な箇所とか、優先度とか、緊急度、これはみます。当然みなければなりません。ただし、「ここここはちょっと待ってもいいんじゃないの?」、普通だったら予算をつけてできるところを、奨学資金とか、そういったところに振り分けたいと思っています。ですから、目立たない予算になってしまいます、そういうところは。それをやらないとダメなのです。潤沢に市の財政があるわけでもありません。皆さんからいただいている市税も80億くらい。それを基本に予算を組みますから、どちらかが立てばどちらかが立たないというのはあたりまえのことなのです。だから、我慢するところは我慢していただく。やるべきところはやる。ということで、少し大野は目立たない事業に予算をつける可能性がありますので、中身を見られたらなるほどとだけ思っていたか、いややっぱり道路は即行だなと言われるか。このあたりを私は皆様方にどう受け止められるかわかりませんが、頑張りぬいていきたいと思っております。

ぜひ黒部市役所の方にもどんどん足を運んでいただいて、職員と色々なコミュニケーションをとっていただきたいし、黒部市がこれから進むにあたって、皆様方のおひとりおひとりのお力がなんとでも必要でありますので、どうぞ黒部市の将来のために、皆様方の力をお貸しいただきまして、これからお願い申し上げまして、私からの閉会にあたってのご挨拶に代えさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。